

成長（身長・体重）について

小さく生まれたお子さんは、生まれてからしばらくの間、成長はゆっくりですが、多くのお子さんは2～3歳までにキャッチアップ（平均値に近づくこと）します。このころまでに平均的な成長を遂げていないと、その後の小児期を通じて小柄であることが多いです。この傾向は在胎週数が小さいほど、また、在胎週数に比して、身長と体重が小さいお子さんほどより強い傾向となります。またご両親の身長も児の最終身長と関係があります。

ホームページ掲載の身体発育曲線や母子健康手帳の身体発育曲線のグラフなどに、乳幼児健康診査や育児相談などで測定した身長・体重を記録してみましょう。乳幼児健康診査では、お子さんの身長・体重の伸びをお母さんと一緒に確認しています。身長・体重が標準の成長曲線から小さい方に離れていく場合などには小児科への受診をご案内しています。

心配なことがありましたら、乳幼児健康診査の際に医師または保健師に相談しましょう。

【身長について】

身長の伸びが小さく低身長を疑う場合は、経過をみながら治療の必要性について検査等を行います。3歳時点で身長が基準より大幅に小さい場合には成長ホルモン補充療法の適応となる場合があります。

【体重について】

小さく生まれたお子さんは、母乳やミルク、離乳食をしっかり摂ることができていても、体重の増えが比較的緩やかなことがあります。在胎週数34週から36週で生まれたお子さんは1歳頃までに、在胎週数33週までに生まれたお子さんは3歳頃までに、月齢に見合う体重に追いつくことが多いです。

お子さんの発育には個人差がありますので、欲しがる以上に無理に食事量を増やすよりは、心配な場合は、まず相談することをお勧めします。